

# 同志社大学歴史資料館 リニューアルオープン！

同志社  
ナウ

わかばやしくにひこ  
大学歴史資料館准教授 若林邦彦

京田辺校地のキャンパス再編にともない、歴史資料館は、2013年9月17日に知真館2号館1階に移転・リニューアルオープンしました。京田辺校地開校以来おかれていた知証館の展示室（以前は考古学資料室）と同志社国際高校東の収蔵庫がともに移転することになったのです。

展示室・収蔵庫・書庫・作業室が一体の施設となり、小ぶりですがきれいな博物館になっています。展示室では、文学部の学術発掘調査と、キャンパス整備に伴う校内遺跡発掘調査で出土した100万点をこえる収蔵品からテーマに応じて資料を展示しています。常設展示では、下記のテーマで展示を行っています。

- ・ 人間と環境
- ・ 技術と社会
- ・ 心と人間の営み
- ・ 京田辺の歴史と文化

収蔵品・展示品は同志社大学の研究調査によって得られた貴重な

学術資料です。本館の展示を通して、人間の「過去」を考える学術活動の大切さを伝えたいと考えています。

また、京田辺市や南山城地域の文化施設の一つとして、歴史・文化の価値を伝えていく施設として活動していきます。さらに、博物館学芸員課程の館実習の場としても役割を果たしてまいります。

ぜひ、ご見学ください。（開館日時：月～金曜日 10：00～16：00、月2回程度土曜日臨時開館）

<http://hnmuseum.doshisha.ac.jp/>  
（歴史資料館ホームページ）



井辺八幡山古墳出土埴輪群



京田辺市観音寺の古代瓦などの展示

# 東京オフィスの 移転について

## 東京オフィス

東京オフィスが現在入居している大手町の日本ビルディングが再開発のため閉館となることから新たな物件を探してきたところですが、この度、京橋イーストビルの3階に移転することになり、3月4日から業務を開始します。

移転するビルは、昨年5月に竣工した新築物件で、JR東京駅の八重洲南口から徒歩6分、東京メトロ銀座線「京橋」駅からは徒歩1分と交通の便が良く、また、中央通りに面した大変立地の良い場所に所在しています。

新オフィスの専有面積は、首都圏における情報発信力を高めるため、598㎡（181坪）と現在のオフィスの2倍の規模となっています。これに伴い、セミナー室や会議室の広さを拡充して大人数での利用に対応できるようにするとともに、新たにラウンジを設け映像や書籍・パンフレット等により来室者に同志社をアピールするギャラリーを併設しています。ま

た、就職活動で利用する学生からの要望を踏まえ、休憩するためのリラクゼーションスペースとしての畳エリアも設けています。

このように新オフィスは、機能性を一層向上したものとなっておりますので、教職員・学生・校友の皆様、学内各部署におかれましては、諸活動の首都圏における拠点として多様な用途で活用をお願いします。

新オフィスの住所及び電話番号等は、次のとおりです。

### 【住所】

〒104-0031

東京都中央区京橋2-7-19

京橋イーストビル3階

### 【電話番号】

03-6228-7260

### 【FAX番号】

03-6228-7262

### 【アクセス】

JR「東京」駅 八重洲南口

徒歩6分

東京メトロ銀座線「京橋」駅

6番出口 徒歩1分  
東京メトロ有楽町線「銀座一丁目」駅 7番出口 徒歩5分  
都営浅草線「宝町」駅 A5より  
A7出口 徒歩3分



イメージバース

# 学芸学部音楽学科 第43回定期演奏会〈兵庫公演〉

女子大学

2013年12月18日（水）兵庫  
県立芸術文化センターにて、音楽  
学科学生による第43回定期演奏会  
〈兵庫公演〉が開催されました。  
ステージ第一部では、1年次生と  
2年次生以上の合唱団各々が、日  
本人作曲家の女声合唱曲を披露し  
ました。ステージ第二部のオーケ  
ストラでは、指揮者の山下一史氏  
を迎え、R.シュトラウスやS.ラ  
フマニノフの大曲を披露しました。  
また、アンコールでは大河ドラマ  
『八重の桜』のテーマ曲を演奏。  
兵庫県立芸術文化センターは、  
初めての会場ではありましたが1  
230名という多くの来場者から  
音楽学科学生によるフレッシュで  
迫力のある演奏に、惜しめない拍  
手がおくられました。



# 同志社第4代社長の玄孫が 同志社大学に留学

大学広報課

同志社第4代社長を務めた西原  
清東（さいばら・きよひさ/せいと  
う）の玄孫、西原ケイティさんが  
京都アメリカ大学コンソーシアム  
（KCS）のプログラムを利用  
して、13年9月から同12月下旬ま  
で同志社大学で学びました。  
ケイティさんは清東に始まる日  
系4世のアメリカ人。リベラルア  
ーツの名門女子大、ウェルズリー  
大学の学生で東アジア研究を専攻  
中です。今回の留学は3度目の来  
日で、同志社大学では明治以降の  
日本政治史、文学、京都の芸術な  
どを学び、北野天満宮で和太鼓の  
練習に汗を流すなど京都の生活を  
楽しみました。

「子どもの頃に  
英語で読んだ漫画  
『るろうに剣心』  
がきっかけで日本  
に興味を持ちまし  
た。中学時代には  
日本のポップカル  
チャー全般に興味  
が広がり、徐々に  
伝統的なものにも  
惹かれていきまし  
た」  
高祖父の西原清



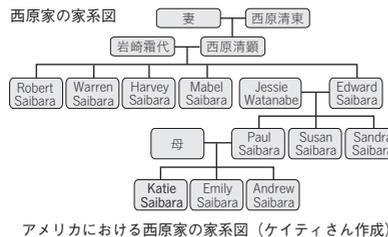
西原清東肖像画とケイティさん（同志社礼拝堂にて）



西原清東の子孫と墓石。前列左から2人目が子供の頃のケイティさん（2004年撮影）

東は1898年衆議院議員に当選、  
翌年同志社社長に就任した後、1  
902年にすべての職を辞して翌  
年渡米。ハートフォード神学校に  
学んだ後はテキサス州に農場を開  
拓して米作に力を注ぎ、清東の作  
った米はアメリカの元になりました。  
農場跡地は現在、NASA  
のスペースセンターになっていま  
す。

「現在、テキサス州の博物館に  
清東が農作業でかぶっていた帽子  
と日本から持参したと思われる卒  
業アルバムが残っていますが、清  
東のことは父や祖父から少し話を  
聞いた程度です。渡米理由もよく  
分かりませんが、神学校に入っ  
たことを考えると、彼が熱心なクリ  
スチャンだったことは言えるので  
はないでしょうか」  
ケイティさんの父は日本に関心  
を持たず、彼女自身もアイデンテ  
ィティはアメリカ人だと言いま  
す。しかし日本への関心や留学先に  
同志社大学を選んだことは、やはり  
高祖父の存在が関係しているとい  
うのが彼女の感想です。



## 創部10年の奇跡… 全国大会3連覇達成！

香里中学校・高等学校教諭 <sup>ひがしく ぼ あ い み</sup> 東久保愛美

高校ダンス部日本一を競う「第6回日本高校ダンス部選手権」の全国大会が2013年8月19日、横浜市のパシフィコ横浜・国立大ホールで開催されました。

この大会には、全国283チームの中から選ばれた計61チーム（ビッグクラス40、スモールクラス21）が出場しました。本校ダンス部は、10人以上のビッグクラスにエントリーし、全国大会優勝を果たすと同時に、全国大会3連覇という成績を残すことができました。

私たちダンス部は、2003年にダンス研究会を発足した当初から、生徒たち自らの力で活動することこだわってきました。どんなに時間がかかっても、生徒たちのミーティングで前に進むことを大事にしてきました。クラブとして当たり前の事や些細な事から、練習メニューといった大切な事も全てミーティングを通して決めてきました。他の運動部のように、伝統ある良いクラブにするため、クラブの中身を作ることに必死で、技術の面は置き去りになってきました。

技術指導者がいるような強豪校



の中、なぜ本校ダンス部が結果を残せたのか。

それは本当に奇跡なのです。中1から高3までの6学年、そしてこれまでダンス部を作ってきた卒業生の一人ひとりがこのダンス部を大切にしながらこそ起きた奇跡なのです。

生徒たちは、見ている方の心に届くダンスを踊れるようになるために日々努力しています。ただ勝ち負けに揺れ動くのではなく、生徒たちの純粹な表現の可能性をこれからも広げていければと思います。



## 同志社女子大学×井筒八ッ橋本舗の協同企画 「ふっくら小豆と 抹茶のムース」が完成

女子大学

本学の食物研究会の学生と株式会社井筒八ッ橋本舗が協同で企画をしたスイーツ「ふっくら小豆と抹茶のムース」が、井筒八ッ橋本舗京極一番街のカフェメニューとして販売されることになりました。

「ふっくら小豆と抹茶のムース」は、同志社女子大学と関わり深い新島八重が茶道に慣れ親しんでいたことからムースのベースは抹茶にし、さらに京都らしさを出すために小倉大納言をたっぷり入れて、トッピングに八ッ橋を使用。

抹茶ムース、小豆、ミルクムースの3層にすることで、味の変化と見た目も楽しめる仕上がりとなっており、更に八ッ橋のトッピングにより食感の違いも楽しめます。

1月22日（水）より井筒八ッ橋本舗京極一番街2階カフェ（京都市中京区寺町錦下ル）にて販売。



食物研究会

本学のクラブの一つで、おぼんざい講習、料亭訪問、校外での体験学習、本学ホームページに掲載中の「お手軽レシピ」の考案などを中心に活動している。

過去には、京都市内のホテルやイオングループとともに協同開発し、商品化されたものもある。



# 女子中高新校舎起工式

社 志 同  
ウ ナ

女子中学校・高等学校教諭 さかもとのりあき  
坂本典明

2013年8月30日、理事長、総長、大学長ご列席のもと新校舎建設に向けての起工式が執り行われました。

女子中高では現在の東グラウンドに、中学H R教室（18室）、中高共用の特別教室（23室）及び食堂、そして各部教職員の管理部門室が入る校舎を建設します。現在の黎明館、希望館の機能がほぼ新校舎に移ります。さらに本校独自の小チャペルや屋上庭園、多様な使用方法が考えられるスクールアトリウムや生徒ラウンジが加わり、交流や憩いの場として活動空間が拡大し、生徒たちの心豊かな学校生活に更なる彩りを添えてくれるものと期待しています。

また、新校舎建設の後、黎明館、希望館を解体し、そこに全面人工芝のグラウンドと陸上走路を整備します。なお、工事中の生徒の安全を第一に考え、新生館への通路として連絡デッキを、まず最初に整備します。新生館の耐震補強工

事も来年度合わせて行われる予定です。

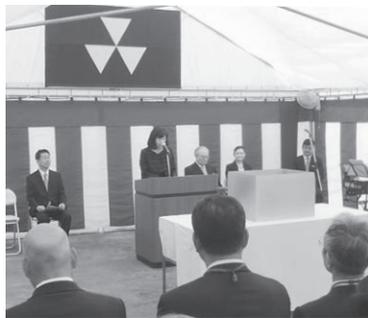
この工事期間中に、同志社女子大学の体育施設を一部借用させていただくことになっており、この場をお借りし感謝申し上げます。また、並行して女子大学のキャンパス整備も行われていますので、より一層の連携・協力をしてまいり所存であります。



女子中高新校舎を西側グラウンドから見た完成予定図（イメージ）



女子中高新校舎を南西上空から見た完成予定図（イメージ）



起工式